

教科：数学科

Research ⇒ 現状分析・課題把握

- 1年生・【授業、単元テスト、小テスト、実技テスト、定期考査など】⇒1学期のテストでは、90点以上が20%になり、真面目によく努力している生徒がいるが、40点以下も10%いるのでこの生徒をよく分析し対処したい。40点以下の生徒の中には算数段階からのつまずきがあるようである。
- 2年生・【授業、単元テスト、小テスト、実技テスト、定期考査など】⇒1学期のテストでは、2年生としての自覚が出てきたようで、80点以上が50%に達した。40点以下も20%いて2極化している。
- 3年生・【授業、単元テスト、小テスト、実技テスト、定期考査など】⇒期末考査の結果では、70点台の生徒が11人と最も多く、次に60点台の10名となっている。40点未満の生徒は4人と少ない。これらから基礎計算の定着度は高いことが読み取れる。さらに学力向上を図るためには、応用問題や活用の問題の正答率を高める必要がある。

Plan ⇒ 課題解決のための主な取り組み(計画)

《Ⅰ 基礎的・基本的な知識・技能の『習得』》

- 1年生・ほぼ毎時間やっている小テストをやりっ放しにせず、解き直しさせ、再提出させるようにする。さらに、授業中の個別指導を徹底させたい。ワークを使って、授業中の復習もやる。単元によっては放課後の補習も考えたい。
- 2年生・1年と同じように小テストの再提出やワークを使っての復習、補習等も考える。今後、図形の証明や1次関数等、難しい単元に入るので、丁寧にゆっくり扱う。また、合同条件等の暗唱を徹底させ証明に役立てる。
- 3年生・現状、理解度は高い。基本的な計算に関しては、内容を細分化し、テストを行う。また、定期テスト終了後はテスト直しを行い、知識・技能の定着を図る。学習習熟度の低い生徒には、基本的な内容の反復学習を授業内で行うと共に、学習指導支援員とも連携し個別指導を行う。

《Ⅱ 思考力・判断力・表現力等の『活用』する力の育成》

- 1年生・発展問題を、ヒントを与えながらゆっくり解き進め、あきらめずにやりきる力を育てたい。また、グループの話し合いで解き合う時間も作りたい。
- 2年生・1年と同様に応用問題をあきらめず解くように指導していく。応用問題のプリントをやらせて解き直しもさせ定着させる。また、四角形の性質を覚えさせ証明に生かさせる。
- 3年生・テスト直しで解けなかった活用の問題に取り組ませる。問題集のC問題レベルの内容を集めたプリントを作成し、演習を行う。教科書に出てくる問題でも、説明や証明の内容は特に時間をかけて指導する。標準クラスでも教え込みで終わらせず、自力で解法を導けるように指導する。

《Ⅲ『学ぶ意欲や態度』の向上、学習習慣の定着》

- 1年生・宿題についてはこのままの提出状況が続けていきたい。ただ、やればよいという傾向にならないように中身の充実を図らせる。主にワークから宿題を出しているので、単元別のテストで定着したか確認したい。
- 2年生・内容が難しくなり、答えを見ながらでないとは解けなくなるので、その意味も考えられるようにフォローしていきたい。ワークの応用問題等補習等で教えていく。また、証明のパターン仮定、結論の使い方を覚えさせるために、繰り返しノートに書かせる。
- 3年生・入試に向けた問題や、実際の入学試験を授業に用いる。ICT機器の活用を行い、通常の授業とは違った形で、興味が湧く学習活動を展開する。問題集付属のデジタルドリルを活用し、学習の定着を確認する。